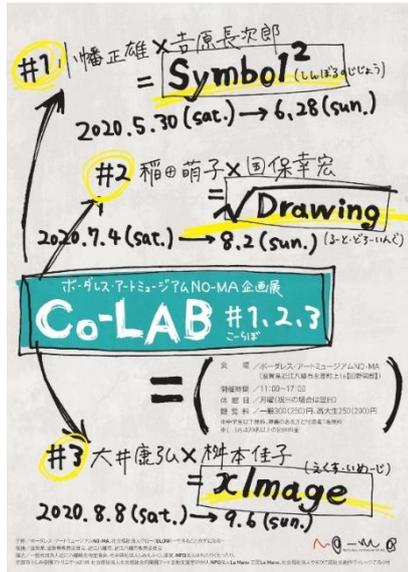


【展覧会】

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展 Co-LAB #1,2,3

NO-MAを舞台に、2人×3期のコラボ展覧会シリーズを開催



「Co-LAB #1, 2, 3」は、2人展を3期に分けて開催する展覧会のシリーズです。Co（共に）とLAB（研究室）をかけた造語で、「こーらぼ」と読みます。NO-MAをラボに見立て、会期毎に「#1 Symbol（象徴）」、「#2 Drawing（描くこと）」、「#3 Image（像）」といった各ペアの表現に通底するテーマを設定しています。互いの作品の共通性と差異性を行ったり来たりしながら見ていただき、2人のアーティストの芸術性を相乗的に味わう展覧会シリーズです。

会期: 「#1 小幡正雄×吉原長次郎=Symbol²（しんぼるのじじょう）」

2020年5月30日（土）～6月28日（日）開催日数：26日間

「#2 稲田萌子×国保幸宏= $\sqrt{\text{Drawing}}$ （るーと・どろーいんぐ）」

2020年7月4日（土）～8月2日（日）開催日数：26日間

「#3 大井康弘×榎本佳子= x Image（えくす・いめーじ）」

2020年8月8日（土）～9月6日（日）開催日数：26日間

場所：ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

【Co-LAB #1,2,3 の見どころ】

- ・ 2人のアーティストの掛け算が、どんな化学反応を生むのか？3期にわたる2人展をお楽しみください。
- ・ 館内風景を学芸員やゲストのコメント付きで映像配信する「Co-LABチャンネル」を実施します。
- ・ ご自宅で楽しめるワークショップを提案します。リモートワークショップでは「Co-LABアーティストの制作を体験しよう」をFacebookなどで配信します。

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：kikaku@glow.or.jp

展覧会概要

タイトル Co-LAB #1,2,3

会場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）

会期 「#1 小幡正雄×吉原長次郎=Symbol²（しんぼるのじじょう）」

2020年5月30日（土）～6月28日（日）開催日数：26日間

「#2 稲田萌子×国保幸宏=√Drawing（るーと・どろーいんぐ）」

2020年7月4日（土）～8月2日（日）開催日数：26日間

「#3 大井康弘×榎本佳子=xImage（えくす・いめーじ）」

2020年8月8日（土）～9月6日（日）開催日数：26日間

開催時間 11:00～17:00

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

展示替え期間：6月29日（月）～7月3日（金）

8月3日（月）～8月7日（金）

観覧料 一般300円（250円） 高大生250円（200円） 中学生以下無料

※障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金

主催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

後援（予定） 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力 一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、NPO法人はれたりくもったり、京都市ふしみ学園アトリエやっほっ!!、社会福祉法人北光福祉会向陽園アート活動支援室ぴかり、社会福祉法人やまびこ福祉会創作ヴィレッジこるり村、NPO法人La Mano 工房La Mano

【当館での新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応】

「Co-LAB #1,2,3」にご来館の皆様へのお願い

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の取組へのご協力をお願いいたします。

1. 次の症状がある体調不良の方は入館をご遠慮いただき、帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

・重症化（※）しやすい方で発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

※高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方

・上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が4日以上続いている方

2. 感染拡大防止の観点から、マスクを着用してください。

3. 来場者が多数の場合は、入場を制限させていただくことがあります。

当館での取り組み

・スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めています。

・スタッフはマスク着用の上で案内いたします。また、こまめな手洗いをを行います。

・館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れる箇所の消毒を強化しています。

・館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行っています。

出展者紹介（広報画像用）

「#1 小幡正雄×吉原長次郎=Symbol²(しんぼるのじじょう)」

段ボールに赤鉛筆で「結婚式」のイメージなどを描き続けた小幡正雄。自身の名前、国旗、踏切の遮断機、顔の描かれた太陽が登場する絵を何度も繰り返し描いた吉原長次郎。2人にとって、「Symbol(象徴)」を描くことに、いかなる意味があったのでしょうか。#1では、自身のアイデンティティと切り離せない制作を続けた2人の作品を展示します。

小幡正雄 Obata Masao

1943-2010 / 兵庫県

入所する施設の調理場から野菜や魚などが入っていた段ボールを拾い集めてきては、夜な夜な絵を自室で描き溜めた。好んで描いた題材として挙げられるのは、結婚式や家族の絵が多い。小幡はそれらのテーマを赤色で描き続けた。画中の人物たちのアルカイックスマイルや、動植物の素朴な描き方は、原始芸術を彷彿とさせる。

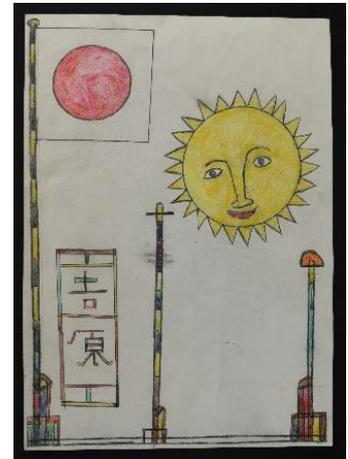


無題 制作年不詳 撮影：大西暢夫

吉原長次郎 Yoshihara Chojiro

1933-2013 / 北海道

吉原は、丸の形にこだわりを持ち、顔が描かれた太陽、日の丸の旗、非常ベルやだるまなどが登場する絵を描き続けた。モチーフ選びに通底するのは丸い形。これらのモチーフに固執した理由は定かではないが、アイデンティティの根源といえるほどに、重要なテーマだったことが、大量に残された作品から伺える。



《はたとたいよう》 制作年不詳 撮影：大西暢夫

「#2 稲田萌子×国保幸宏=√Drawing(るーと・どろーいんぐ)」

稲田萌子は、色鉛筆や絵筆を手に紙の上でさまざまな動きや感触を楽しむことで、抽象的で温かみのある絵が生み出されていきます。国保幸宏は、幾重にもオイルパステルを塗り重ねながら、抽象と具象が混濁したモチーフを描きます。#2では、「Drawing (描くこと)」自体に焦点を当て、描画へ強い気持ちが透けて見える2人の作品を展示します。

稲田萌子 Inada Moeko

1985- / 東京都在住

円や点で構成される稲田の抽象画は、淡い色彩が印象的で、どこことなくあたたかみを感じられる。稲田が気に入っている動作——ぐると色鉛筆を紙の上で回したり、紙の上に綿棒をポンポンと打ち付けたり——を経て、絵が生まれていく。同じ動作を繰り返す「楽しみ」こそが、稲田と絵を繋いでいる。



無題 2019 撮影：大西暢夫

国保幸宏 Kokubo Yukihiro

1974- / 京都府在住

国保は、クレヨンでの塗り、アクリル絵具での塗りを繰り返しながら、絵を作り上げていく。支持体にこすりつけられるオイルパステルや絵筆が、絵を具象とも抽象とも捉えられるイメージとして立ち上げていく。幾度とない塗り重ねは、彼の作品に、物理的にも、表象的にも重厚さをもたらしている。



《白鳥の湖》 2016 撮影：大西暢夫

「#3 大井康弘×榎本佳子=x Image(えくす・いめーじ)」

大井康弘は、身体のパーツを断片的に描いたり、自分の体毛を芯材に入れ込むなどミステリアスな工程を経て焼き上げる陶芸作品を制作します。榎本佳子は陶器の壺や皿などといった伝統的な陶芸技術をベースにしなが、現代的な諸要素を折込み、意表を突く形状を生み出します。#3では、多くの人が疑うことのない常識的な「Image (像)」を裏切って、意外性に満ちた形を提示する2人の作品を展示します。

大井康弘 Oi Yasuhiro

1982- / 滋賀県在住

ガネーシャや動物を模した粘土作品や、身体的なイメージを組み合わせたコラージュなどを制作する。制作方法は、装飾を施すように特定のモチーフの上にパーツで覆う足し算の制作である。粘土作品では、重ねるように過剰に覆うため、もとは何のモチーフなのかかわからないものもある。平面作品はコラージュを施した後に、コピー機で印刷したものが完成品となる。



《ガネーシャ》 2013 撮影：大西暢夫

榎本佳子 Masumoto Keiko

1982- / 滋賀県在住

一心同体になった壺とスペースシャトル《スペースシャトル／壺》、壺の表面染付された波紋から飛び出すカジキマグロ《カジキ釣り／壺》など、榎本の作品の中では、予期できない意外な像(イメージ)が皿や壺といった陶磁器に織り込まれ、未知の像を結んでいる。作品は常識的な「器」の価値観を、軽やかに裏切っていく。



《毛蟹／赤絵壺》2017 撮影：KENSE

イベント情報

「おうちで Co-LAB」

「Co-LAB #1,2,3」展をご自宅で知ってもらい、楽しんでいただくため、「おうちで Co-LAB」というイベントのシリーズを展開します。

館内動画配信「Co-LAB チャンネル」

館内風景を担当学芸員やゲストのコメント付きで動画配信します。

第一回放送：「#1 小幡正雄×吉原長次郎=Symbol²（しんぼるのじじょう）」

出演：横井悠（NO-MA主任学芸員）、山田創（NO-MA学芸員）

視聴期間：6月8日（月）～9月6日（日）

第二回放送：「#2 稲田萌子×国保幸宏=√Drawing（るーと・どろーいんぐ）」

出演：中島慎也（アトリエやっほう!!支援員）、山田創

視聴期間：7月13日（月）～9月6日（日）

第三回放送：「#3 大井康弘×榎本佳子=x Image（えくす・いめーじ）」

出演：榎本佳子（本展出展者）、山田創

視聴期間：8月17日（月）～9月6日（日）

常設&リモートワークショップ「Co-LAB アーティストの制作を体験しよう」

本展出展作家たちの制作を題材に、アート創作の体験ができるワークショップです。NO-MA会場でもおうちでもお楽しみいただけます。

#1 吉原長次郎さんの作品を追体験「おわんで太陽」

太陽を描き続けた吉原さんにならって、おわんをかたどって円を描き、自分のイメージする色で太陽を描いてみましょう。

#2 稲田萌子さんの作品を追体験「ぐるぐるドローイング」

家にある紙と色鉛筆で、稲田さん風のドローイングを描きます。好きな音楽を口ずさみながら描くと、なお稲田さんらしくできあがります。

#3 大井康弘さんの世界を感じよう「大井さんの塗り絵」

謎めいた大井康弘さんの作品の塗り絵です。好きな色で塗って、大井さんの作品にアレンジを加えてみましょう。

作った作品を投稿していただき、NO-MA Facebook や、館内にてご紹介します。

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展 Co-LAB #1,2,3

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- (1) キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者を必ず表記ください。
- (2) 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- (3) 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：

『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

お電話番号：

FAX：

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①小幡 正雄	無題	制作年不詳	撮影：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	②吉原 長次郎	《はたとたいよう》	制作年不詳	撮影：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	③稲田 萌子	無題	2019年	撮影：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	④国保 幸宏	《白鳥の湖》	2016年	撮影：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑤大井 康弘	《ガネーシャ》	2013年	撮影：大西暢夫
<input type="checkbox"/>	⑥梶本 佳子	《毛蟹／赤絵壺》	2017年	撮影：KENSE

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2
TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp